



東京六本木ロータリークラブ

TOKYO  
ROPONGI  
ROTARY CLUB



平成21年8月31日  
卓話『仏教起源の意外なことば』

浄土真宗本願寺派 光明寺 住職  
武蔵野大学薬学部 准教授  
東京六本木ロータリークラブ会員  
石上 和敬 様



仏教のお経は難しい言葉がたくさん出てきて、どうもとっつきにくい、というお声をよく耳にします。確かに、「空」、「般若」、「縁起」などなど、教義的な用語が並んでいると、近寄り難い印象を持たれることも事実であります。しかしながら、私たちが日常生活において何気なく使っている言葉の中には、もとを辿れば実は仏教の言葉だった、というものも意外に多いのです。本日は、仏教ワールドを少しでも身近に感じて頂くために、それらの言葉のいくつかをご紹介したいと思います。

仏教起源の日常語としてよく取り上げられるものに「旦那」があります。時代劇などによく登場する呼称ですが、現在でも、一家の主が「旦那様」と呼ばれることが珍しくありません。この「旦那」はもともと「檀那」と書いたようですが、いずれにしても、インド語のダーナを「当て字」（私たちは「音写」と呼んでいます）したものです。ダーナの意味は「与えること、布施すること」という意味ですので、「旦那」とは、もともと「施しを与える人、立派な布施を行なう人」という意味であったようです。「旦那様」と呼ばることは、なかなか大きな責任を伴うことだったのです。

この他にも、たとえば、「我慢」、「娑婆」、「斷末魔」、「奈落」など、仏教起源の言葉の定番というものがいくつもあり、それらをまとめた

書籍も出ていますので、ご関心のある方はご参考ください。（中村元編『仏教語源散策』（東京書籍）のシリーズなどが代表的なものです）

上記の定番のほかに、本日は次のような言葉を紹介したいと思います。サッカーのJリーグに京都サンガというチームがあります。このサンガは、仏教の三つの宝物（「三宝」と呼びます）、すなわち、仏・法・僧の「僧（または僧伽）」に当たる言葉で、インド語のサンガに由来し、「グループ、仲間」という意味です。仏教のサンガ（僧、僧伽）の場合には、「仏の教えに集う仲間」という意味ですが、京都サンガの場合には、サッカーを愛する仲間たち、ということになるでしょう。

この他に、お釈迦様にミルク粥を捧げた少女スジャーターに由来する「スジャータ」や、インドの乳飲料カルピスに由来する「カルピス」なども、仏教起源の言葉と言ってよいでしょう。このように、仏教起源の言葉はインドにまで遡るものが多く、文化交流という観点からも、関心をそそられるものもあります。是非とも、仏教起源の言葉にご関心を持って頂ければ幸いに存じます。合掌

